

「火山噴火予知連絡会火山活動評価検討会」(中間報告)

- 監視・観測体制の充実等の必要がある火山の選定について -
- ・ 火山噴火予知連絡会火山活動評価検討会(座長:石原和弘 京都大学防災研究所長)において、平成19年1月より、中長期的に噴火等が発生する可能性の検討をもとに災害軽減のために監視を強化すべき火山の選定を進めてきました。この度、その選定結果がまとまりましたのでお知らせします。

選定理由	火山名
<p>近年、噴火活動を繰り返している火山</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 過去数十年程度の間、頻繁に噴火している ・ 100年以内の間隔でマグマ噴火を繰り返している 	<p>雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、秋田焼山、秋田駒ヶ岳、吾妻山、那須岳、草津白根山、浅間山、新潟焼山、焼岳、御嶽山、伊豆大島、三宅島、硫黄島、阿蘇山、霧島山、桜島、薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島(23火山)</p>
<p>過去100年程度以内に火山活動の高まりが認められている火山</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地震活動 過去100年程度の山体浅部の地震活動(マグマの動きに関連したものなど) ・ 地殻変動 過去10年程度のマグマ貫入等に伴う地殻変動 ・ 噴気活動・地熱活動 過去100年程度の活発な噴気活動、地熱活動 	<p>アトサヌプリ、大雪山、恵山、岩手山、栗駒山、蔵王山、安達太良山、磐梯山、日光白根山、乗鞍岳、白山、箱根山、伊豆東部火山群、新島、神津島、八丈島、鶴見岳・伽藍岳、九重山(18火山)</p>
<p>現在異常はみられないが過去の噴火履歴等からみて噴火の可能性が考えられる</p>	<p>鳥海山、富士山、雲仙岳(3火山)</p>
<p>予測困難な突発的な小噴火の発生時に火口付近で被害が生じる可能性が考えられる</p>	<p>倶多楽、岩木山、青ヶ島(3火山)</p>

太字は、気象庁が連続監視している火山を示す

火山観測体制の充実についての基本的な考え方について

火山観測体制等に関する検討会（座長：清水洋 九州大教授）では、平成 20 年 2 月より、火山災害軽減に向けて、調査研究の一層の推進及びその成果を活用した観測体制の強化等を進めるために検討を行っています。この度、火山観測体制の充実についての基本的な考え方を以下のようにまとめましたのでお知らせします。

火山観測体制の充実についての基本的な考え方

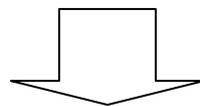
関係機関は、それぞれの役割を踏まえながらこれまで以上に連携し、観測データの流通・共有を推進するとともに、火山噴火予知連絡会火山活動評価検討会で選定された合計 47 火山を対象に以下の方策で火山観測体制の充実を図る。

火山監視・観測体制の充実

- ・ 気象庁は関係機関と連携して、監視・観測体制の強化を図る。
- ・ 大学及び関係機関の動向を踏まえ、必要に応じ監視・観測体制の整備に努める。
- ・ 大学等研究機関が重点的に観測を行う火山については、大学等研究機関の協力を得ながら、観測データの流通と共有を推進し、監視体制の強化を図る。

火山噴火予知研究の推進のための研究観測体制の充実

- ・ 科学技術・学術審議会測地学分科会火山部会の検討に基づき、活動度が高い火山や、現時点では活動度が低いものの潜在的爆発活性が高い等、研究的価値の大きい火山に観測機器等の研究資源を集中する。
- ・ 防災科学技術研究所等は大学の観測研究の支援も視野に入れた観測体制を整備する。



火山観測体制の充実